

2025 年 11 月 27 日
日本水素エネルギー株式会社
川崎重工業株式会社

液化水素サプライチェーン商用化実証の主要施設となる 液化水素基地の起工式を開催 ～水素社会の実現に向けた新たなステップへ～

日本水素エネルギー株式会社（代表取締役社長：原田英一、以下「JSE」）と川崎重工業株式会社（代表取締役社長 執行役員：橋本康彦、以下「川崎重工」）は、本日、川崎市扇島に建設する液化水素基地「川崎 LH₂ターミナル」の起工式を開催しました。

川崎 LH₂ターミナルは、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が推進する「グリーンイノベーション基金事業」に採択された「液化水素サプライチェーンの商用化実証」（以下、商用化実証）の主要な設備で、世界最大級の液化水素貯蔵タンク（貯蔵容量 5 万 m³）、海上荷役設備（出荷 / 受入両機能を含む）、水素液化設備、水素送ガス設備、液化水素ローリー出荷設備を備えた、世界初の商用規模の施設となります。JSE が事業主体となり、川崎重工を代表企業とする共同企業体が主要コントラクターとして、設備の設計・建設を担当します。また、今後建造を予定している液化水素運搬船（容量約 4 万 m³）も世界最大級の容量をもち、基地も併せたこれらの設備は、将来の水素サプライチェーンの本格運用に向けた基盤を形成します。



川崎 LH₂ターミナル完成予想図

商用化実証では、2030 年度までに川崎 LH₂ターミナルならびに液化水素運搬船の運用を行いながら、国際水素サプライチェーンの商用化の要件（性能、安全性、耐久性、信頼性、経済性等）を国内で確認します。

2030 年度以降は、海外から調達した液化水素を液化水素運搬船で日本へ輸入して、川崎 LH₂ターミナルで受入・貯蔵をした後に、国内の水素需要家への供給を目指します。



起工式の様子

写真左から：

川崎重工業株式会社 代表取締役社長執行役員 橋本康彦

川崎市長 福田紀彦

経済産業大臣政務官 小森卓郎

元内閣総理大臣 衆議院議員 菅義偉

水素社会推進議員連盟 会長 衆議院議員 小淵優子

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 理事長 斎藤保

日本水素エネルギー株式会社 代表取締役社長 原田英一

■施設概要

場 所： 神奈川県川崎市川崎区扇島（JFE スチール株式会社敷地内）

主要設備： 液化水素貯蔵タンク（貯蔵容量 5 万m³）、海上荷役設備（出荷 / 受入両機能を含む）、水素液化設備、水素送ガス設備、液化水素ローリー出荷設備

以上